

特集○創価大学の教育力

Special Edition: Soka University's Educational Capabilities

馬場学長が語る「創大はどうパワーアップしたか」

Soka University President Yoshihisa Baba explains the improvement, of Soka

91

創価大学ニュース

2016  
Autumn

# SUN

Soka Univ. News

創大のハードとソフト、両面の歩み

The footsteps of Soka University



「時代」を先取りする

Anticipating the future

夢をつかむための強力サポート

Supporting students achieve their dreams

知力・人間力アップの秘密とは

The secret to improving strength of knowledge and character







# 馬場学長が語る「創大はどうパワーアップしたか」

Soka University President Yoshihisa Baba explains the improvement, of Soka



## 学生や卒業生の活躍に 創大生のレベルアップを実感！

大学を取り巻く社会情勢の変化を捉えながら、自らの教育理念や留学体験から教育改革を進めてきた馬場学長が、創大の教育力について語ります。

### 「自主性尊重」という名の下の 従来の教育形態を刷新

今、日本では少子化が進み、社会のニーズも多様化し、大学は競争的環境下で独自性を打ち出す必要に迫られています。しかし、私が教務部長に就任した1996年(平成8年)当時は、大学教育にはあまり独自性が見られず、この大学も均一のカリキュラムを採用していました。例えば、1～2年次は教養課程で、一般教養が36単位、語学が16単位、体育が4単位、専門分野が80単位で、合計136単位。3～4年次になってようやく専門課程へ進むという具合です。しかも一般的に大学側には、「学生の勉強はその自主性に委ねる」という考え方が根強くありました。良く言えば学生を尊重しているといえますが、逆に教える側の努力不足を招き、学生の学力を保証できないことにもなりかねません。

私は、26歳でアメリカの大学への留学を経験しましたが、日本とアメリカの大学教育の大きな違いを強く感じました。アメリカの大学では、入学から卒業まで、学生が徹底的に勉強に打ち込むシステムが確立されています。また、専門分野の授業でも、学生が基礎力を確実に身に付けているかを重視します。それは、学生が将来進むべき方向を見つける際に、最も助けとなるのが基礎力だと考えているからです。

ですから創大生には、ある意味、強制的に(笑)基礎学力や学習スキルを確実に身に付けてもらおうと考えました。それが社会に出て夢をつかむための基本条件になるはず。

そこで取り組んだのがカリキュラムの改革でした。まず、従来の通年制からsemester制へ

移行しました。1年間という長いスパンではなく、semester毎に授業を完結することで、集中的かつ確実に知識を身に付けるというものです。

英語教育の変革も重要な課題でした。入学時に、TOEICのスコアなどで習熟度のレベル分けをしてクラス編成を行いました。学生の基礎学力を入学時に把握しておくことは、その後の教育を確実に進めるうえでの目安になると考えたからです。また、当時は講義中心の授業でしたが、英語の4技能を身に付ける内容とするために、様々なプログラムを導入しました。例えば経済学の専門知識を英語で学ぶIP(インターナショナルプログラム)やJAS(Japan-Asia Studies)などのカリキュラムもどんどん取り入れていきました。そして2014年(平成26年)には、専門科目を英語で授業し、1年間の海外留学を必須とする国際教養学部を開設しました。こうした様々な改革は、国内の大学の中ではかなり先行していたと思います。

### ハードとソフトの両面から 学生や教員をバックアップ！

カリキュラムや授業形態などソフト面での変革と同時に、それを支える施設、つまりハード面の充実も進めました。なかでも2013年(平成25年)にオープンした中央教育棟は現在、積極的に学習する創大生のための重要な空間になっています。特に総合学習支援センターSPACe(スペース)は、書籍やビデオなどの資料やプレゼンテーション・ツール、インターネット環境を完備し、学生のさらなる可能性を引き出すことを目指しています。

実は、SPACeには「授業外学習時間」を増

やすという目的もあります。私は授業外学習時間の増加が、創大生のレベルアップには欠かせない条件の一つであると考えています。授業で得た知識を定着させ、確実に自分のものにしていくためには、授業以外の学習時間の質と量を充実させる必要があります。授業外学習で身に付けた知識、スキル、学習方法こそ、一生の財産となるのです。

### 学内のさらなる国際化で 世界と直結した創大に

今後は学内の国際化をさらに進めていき

たいと考えています。具体的には、様々な文化や風習を持つ多くの国から留学生を今以上に受け入れていきます。キャンパスで、日常的に異文化と触れ合うことが当たり前となる、そんな環境を創大生に提供したいのです。留学することも大切ですが、学内でも留学経験者と同じような実力を身に付けられるシステムを構築することを着実に進めています。

また、海外からの留学生にとって、難解といわれる日本語修得の壁を低くするために、共通・専門科目の英語化を推進し、英語による授業の履修で卒業可能なコース

「English Track」の増加を進めていきます。創大の魅力はたくさんありますが、学生一人ひとりの夢や思いを実現させるために、多くの人がサポートを惜しまない大学だということを強調したいと思います。友達や先輩と協力し合い、教職員、卒業生の応援を受けながら成長していける校風は創大ならではです。こうした伝統と、日本屈指のグローバルな環境が創大の教育力です。創大には、皆さんが夢をつかむためのリソースがたくさん用意されています。

#### Profile

#### 創価大学 学長 馬場 善久

1953年富山県生まれ。創価大学経済学部卒。カリフォルニア大学サンディエゴ校経済学専攻修士課程修了。Ph.D.取得。専門分野は計量経済学。創価大学経済学部講師、助教授を経て教授。1996年教務部長、2005年副学長、2013年創価大学学長。主な著書に、本多 佑三編「日本の景気—バブルそして平成不況の動学実証分析。(有斐閣、第5章、1995年)」など多数。

#### Soka University President Yoshihisa Baba

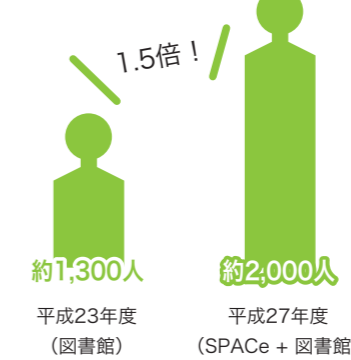
Born in Toyama Prefecture in 1953. Graduated from the Faculty of Economics, Soka University. Completed his Ph.D. in Economics at the University of California, San Diego as a specialist in econometrics. Served as lecturer, associate professor and subsequently professor at the Faculty of Economics, Soka University. Appointed Head of Educational Affairs in 1996, Vice President in 2005, and President in 2013. Literary works include Economy Outlook of Japan - A Dynamic Empirical Analysis of the Bubble Years and Subsequent Recession edited by Yuzo Honda (Yuhikaku, Chapter 5, 1995).

### ●データで見る創大の教育力

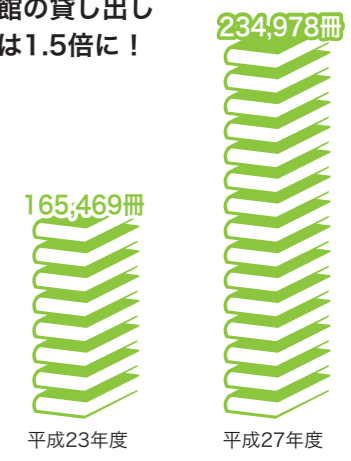
1週間あたりの  
授業外学習時間が150分増加！



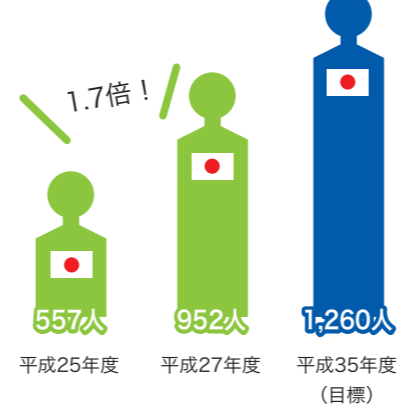
SPACeの開設によって  
自習施設の日あたりの  
入場者数は1.5倍に！



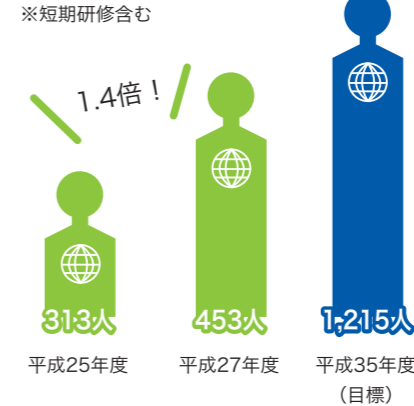
図書館の貸し出し  
冊数は1.5倍に！



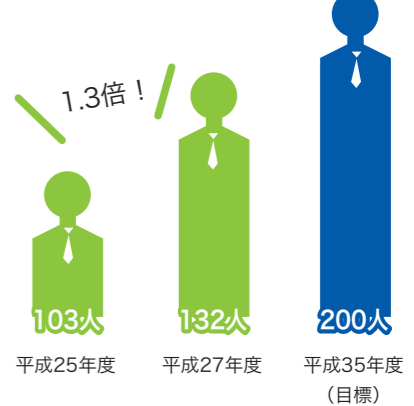
日本人学生全員が海外体験を  
できる仕組み作りへ



外国人留学生  
全学生の15%を目指す  
※短期研修含む



フォーチュン500に  
実績ある企業への内定







## Profile

**学士課程教育機構副機構長  
総合学習支援センター長  
教育学部教授  
関田 一彦**

1982年創価大学文学部卒業。1985年ウィスコンシン大学(ホワイトウォーター校)修士課程修了。1991年イリノイ大学大学院博士課程修了(教育研究科)Ph.D.取得。1992年創価大学教育学部講師。2005年創価大学教育学部教授。研究テーマは「学校(授業)体験が子どもたちの学習観・人間観に与える影響」。教育・学習活動支援センター設立に関わって以来、教育・学習支援システムの構築に力を注ぐ。

**Deputy Director, SEED  
Director of the Student Performance Acceleration Center.  
Professor, Faculty of Education**

## Kazuhiko Sekita

Graduated from Soka University Faculty of Letters in 1982, completed Master's Degree in 1985 at the University of Wisconsin-Whitewater. Received his Doctor of Education degree in 1991 from the College of Education at the University of Illinois. Began working as an instructor at the Faculty of Education at Soka University in 1992, and was made professor in 2005. Conducts research into the influence of school (in-class) experiences on childhood learning and views regarding others. Was involved in the establishment of the Center for Excellence in Teaching and Learning, and has since been engaged in building a support system for teaching and learning.

## カリキュラム改善や授業改革の 起点は「学生第一」

約20年も前から、創大は教育力向上のための支援体制を整えてきました。  
ここでは、総合学習支援センター長・関田教授が、その改革の歴史を具体的に語ります。

### いち早く改革に取り組み、 教育・学習支援センターを設立

今、日本の大学教育は大きな転機を迎えています。大学進学率が5割を超える一方で、授業についていけない学生が増加していることに対して危機感を抱いた(文部科学省)中央教育審議会は、2014年(平成26年)に「生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学」への質的転換を提言。日本中の大学が改革に乗り出しました。

しかし、創大はすでに1990年代から授業のあり方を模索し続け、実践的な教育力向上に取り組んできたのです。

なぜ、そんなに早くからと思われるかもしれませんが、そもそも本学の理念は、創造的な人間を育てることにあります。その目標のためには、学生第一の視点で教育力の向上を追求することは必然だったのです。

### 学生の学習力向上を 担う場“SPACE”

学生の学びを支援する「ラーニング・コモンズSPACE」。少人数のディスカッションやプレゼンテーションができるエリア、異文化体験ができる空間、様々な相談に対応するサポートスペース、静かに自習できる場所など、学生の主体的な学びを引き出す場として提供されている。



大学の教育力を向上させるにはどうしたらいいのか。我々は「教員の教育力の向上」と、「学生の学習力の向上」が必要であると考えました。教員はより魅力的で学生の学びに役立つ授業を行い、学生はよりよく学び、かつ主体的に学ぶ。欧米の大学のような能動的な学びができる大学を目指したのです。教員と学生をサポートするために、2000年(平成12年)にCETL(教育・学習活動支援センター)が開設されました。具体的な活動としては、全学FD(ファカルティディベロップメント/教育支援)委員会と協働して、教員一人ひとりの教育力や研究能力を高めるための研修、アドバイザーマニュアルの作成、教材紹介などに取り組みました。

また学生に対しては、「レポートの書き方」など学習スキルを教えるセミナーの開催、数学や統計学の補習など、きめ細かな学習活動の支援を行ってきました。

### 教員のためのCETL、 学生のためのSPACEへ

2013年(平成25年)に、より効果的なサポートを目指し、組織改編を実施しました。CETLは「教員の教育力の向上」を担う組織として、教育・学習支援センターとなり、一方、「学生の学習力向上」を担う場としてSPACE(総合学習支援センター)が誕生したのです。一見、2つに分かれたように見えるかもしれませんが、相互に有機的に結びつきながら大学の教育力向上という大きな目標に向かって機能していくための改革でした。

その前の2010年(平成22年)には、創立50周年へ向けたグランドデザイン構想の一環で、SEED(学士課程教育機構)が発足しています。これは、学部単位で学生を教育してきた体制を改め、全ての学生に一定の学力が身に付くように大学が「学士課程の教育」に責任を持つという姿勢を学内外に示したものです。CETLやSPACE、各種支援プログラムなどを包括する組織です。

### 創価コアプログラムで 学びの基礎を身に付ける

SEEDの設立と関連して、大きく変わったのは1、2年生の教育です。今までは、専門教育の合い間に一般教養を学ぶ感覚が強かったのが、新たに「創価コアプログラム」を設定し、学部を超えて創大生として必要な教養やスキルを確実に身に付けていくことができるようになりました。

例えば、1年生の必修共通科目に「学術文章作法」があります。最近では文章を書くことが苦手な学生が多くなり、上級学年に進むにつれ、さらには社会に出てから本人が困るのは必至です。そこで、独自の教材を用いて、ときには個別指導と併せて書く力を鍛える授業を行っています。

このことは教員にも周知され、専門課程で学生を指導するときに、書く力が不足して



### 教員の 教育力向上の 取り組み

今年9月には、愛媛大学と共催で2日間にわたって「創価大学アクティブラーニング推進のための授業設計ワークショップ」を実施。アクティブラーニングを教員が授業で設計・導入し、自律的に改善サイクルを回すことができる能力を身につけることを目的に開かれた。

いる学生がいたら、「SPACEで文章の書き方を教えているから、もう一度、勉強してみたら」とアドバイスするなど、コアプログラムと専門課程とのつながりをもたせることで、学生のために機能するという流れができています。

### 創立50周年までに、 さらに確実な成果を出す

SPACEは学生が気軽に来て学んだり、ディスカッションをしたり、自習をしたりなど、自由自在に使える場所として作られました。

1年生はSPACE内のChit Chat Clubの参加が必修なのですが、Chit Chat Clubに行ったついでに、学習支援スタッフに相談をしたり、ディスカッションや共同研究をしている先輩たちの姿に刺激を受けたりなど、SPACEに行くだけで有意義な体験ができるようになってきました。特に、先輩たちがロールモデルとなり、1、2年生たちの学習意欲をかき立てている様子は頼もしい限りです。学外の方々の関心も非常に高く、すでに200校ほどの大学がSPACEの見学に訪れています。

一方、CETLも教員に対して、魅力ある授

業、学生参加型の授業の方法を発信し続けています。その効果は確実に出ており、学生たちにアンケートをとると、「能動的に授業に参加できた」と答える学生が増え、約8割の授業でそのような回答が確認できています。こうした取り組みの成果は、TOEICの成績、卒業生の就職状況などに、確実に現れています。

また、2014年(平成26年)に文部科学省に採択された大学教育再生加速プログラム(AP)に取り組む中で、学生には自身の学習成果や成長を、教員には自分たちの教育がどのように学生の成長を促しているかを、それぞれ振り返る機会の提供を進めています。学生は当初の学習目標に到達できたか、教員は学生の学びに役立つ授業ができたかを点検して、次につなげてほしいからです。

本学は、「スーパーグローバル大学創成支援」のみならず、様々な文部科学省の補助金事業の対象校として選ばれています。これは本学の教育システムやカリキュラムが一定の評価を得ている証といえましょう。しかし、私はまだ道半ばだと考えています。さらにサポート体制を強化して、創立50周年を迎えるときには、まさにこれが創大の教育力だという結果を出したいと思っています。



## 今、大学に求められる“教育力”とは

### INTERVIEW

リクルート進学総研所長

リクルート「カレッジマネジメント」編集長

### 小林 浩

近年、社会や企業の構造変革が劇的に進んでいます。大学や学生は、それにどう対応していったらよいのか。変革期の大学や学生像について、リクルート進学総研所長の小林 浩氏に伺いました。

#### 未来に向けて、大学改革は待ったなし

—まず、大学のあり方は、どのように変化しているのかについて教えてください。

アメリカの社会学者マーチン・トロウ氏は、大学教育は、進学率が15%まではエリート養成、50%以内になるとマス形成、50%以上になるとユニバーサル化という段階をたどっていると定義しています。日本でいえば、1960年代までは進学率は10~15%で、大学はまさにリーダーを輩出するエリート養成機関でした。そして、同級生の半数以上が大学に行く現在は、大学はユニバーサル化、つまりすでに大衆化されています。ところが、大学の組織、構造はエリート養成機関だった時代と同じまま今に至っています。それでは当然、変化についていけないということになります。

さらには、現状分析だけではなく未来を見据えることも重要です。OECD（経済協



力開発機構）は“教育は未来からのデマンド（需要）”だという言い方をしています。どんな未来が来るのか、諸説あると思いますが、デューク大学の研究者キャシー・デビットソン氏は2011年に、“今年度アメリカの小学校に入学した子供たちの65%は、大学卒業時に、現在では存在していない職業に就くだろう”と予測しました。AI（人工知能）などのテクノロジーの進化によって、わずか15年で社会構造だけでなく職種も大きく変わるということです。

—社会はものすごいスピードで変わっている。それに対応できる大学に変わらなければならぬということですね。

新しい時代に向けて、教育行政もすでに大きく舵を切っています。文部科学省が発表した2020年実施の新しい学習指導要領では、従来の知識偏重から脱却して思考力や表現力を育成する方針が示されています。小学校では英語が教科として本格導入されます。センター試験も2020年から新テストに移行します。

つまり、2020年以降は新しい教育が小学生や中学生、高校生に実施されます。この子供たちが近い将来、大学に続々と入学してくるわけです。その準備がしっかりできているのか、大学が問われています。

#### 改革が成功している大学は、ビジョンが明確である

—教育のグローバル化も数年前から言

われていますね。

OECDは、世界の留学生数は2012年の450万人から2025年には800万人に拡大すると予測しています。増加数の多くは人口の多い東南アジアやアフリカの国々からの留学生になるだろうと。こうした留学生を大学に迎える準備ができていないか、あるいは日本の大学に来てもらうために、海外の学生へのアピールはできているのか、これもまた、大学が問われています。

—具体的には、どのような教育力が大学に求められているのでしょうか？

知識を得るだけでなく、その知識を使って自分の頭で考えられる人、指示待ちではなく自律的に行動できる人。そういう人を育てるための教育力だと思います。また、アクティブラーナー、つまり生涯学び続ける意志を持つ人を育成することも求められています。

—日本中の大学が改革に乗り出していますが、改革が上手くいっている大学の特徴は？

ビジョンが明確であることです。我が校はこういう教育理念のもと、こういう教育を実施しているという“旗”を、しっかりと立てている大学です。文部科学省が打ち出したからではなく、自ら未来を見据えて自律的に改革をしているような大学です。しかも、教職員が一体となって改革を進めている。こういう大学は学生たちの目も輝いています。

逆に言うと、いくら偏差値が高くても、改革が上手く進められない大学は、将来その

ポジションを確保できていない可能性もあります。

#### 理念に裏打ちされた創価大学の教育環境

—外からご覧になって、創価大学はどのように映りますか？

個性的な大学だと思います。そのミッションやビジョンに沿った教育をきちんと実施している、地に足がついた教育をしていると思います。また、施設が素晴らしいですね。中央教育棟の大教室は廊下側の壁にスリットが入っていて、外から授業の様子がよく分かりますね。オープンな環境がいいと思います。教室やラウンジでは留学生が多くいて、日本人学生たちと自然に交流している。多様性やグローバル化を重視してきた結果が出てることがよく分かります。

ただ、創価大学に限らず、ほかの大学にも言えることですが、トップ層の学生の活躍だけでなく、ボリューム層の学生がどのように力を付け、社会でどのように活躍しているかがもっと見えるといいですね。また、大学で行われている研究内容や成果をもっと分かりやすくアピールするとよいと思います。そうすれば、受験生や保護者、さらには学生を採用する企業が、具体的な大学像を把握しやすくなります。

#### 大学をフル活用して学生は力を付けよう

—最後に、創大生にアドバイスをお願いします。

ひと昔前は、会社に就職したら定年まで安泰でしたが、今は大企業、一流企業といわれる会社でも突然、吸収合併されたり、外資に買収されたりなど、何が起るかわ



かりません。

キャリアの作り方には「山登り型」と「いかだ下り型」の2つがあります。山登り型は、目標を決めて、その目標に向かってひたすら進んでいく方法。いかだ下り型は、川の流れがどう変わろうといかだを乗り越えていくように、状況に合わせて、主体的に働いて自分の力を付けていく方法です。社会が大きく動く時代は、いかだ下り型のような柔軟性があるといいですね。

企業側も、こうした人材を求めています。時代に合わせて変わっていくことを求められているのは、企業も同じだからです。しかも、国内だけでなく、世界を相手にマーケティングし、競争していく時代です。学生の皆さんも、これからは国内だけでなく、海外で仕事をするのが当たり前となっていくでしょう。創価大学の学生さんには、素晴らしい施設や教育プログラム、留学の機会、留学生との交流の場などを大学が用意してくれています。それらを存分に生かして勉強し、自分の力とされることを期待します。



Profile 小林 浩 Hiroshi Kobayashi

1988年早稲田大学法学部卒業。株式会社リクルート入社後、グループ統括業務を担当。「ケイコとマナブ」企画業務を経て、大学・専門学校学生の募集広報などを担当。経済同友会に出向し、教育政策提言の策定にかかわる。その後、経営企画室、進学カンパニーソリューション推進室長などを経て、2007年より現職。文部科学省高大接続システム改革会議委員、同省中央教育審議会初等中等教育分科会専門委員なども務める。





Profile

### 経済学部4年生 大塚 光明さん

1年次は友光寮に入寮。そこで優秀な仲間や先輩に出会い、強い刺激を受ける。どんな現実も否定せず、真正面からチャレンジし、学業だけでなくボランティア活動にも熱心に取り組む熱血漢。

### 誰かがすべきことがあるなら僕がやる!

誰かに喜んでもらうこと、「ありがとう」の数が原動力と語る大塚さん。熱心に取り組んだのがボランティア活動です。1年次から東北復興スタディーツアーや東北復興インターンシップに参加。宮城県南三陸町での経験から、支援する側とされる側との関係性や、学生参加のためのシステム作りについて考えました。その後、学生でもできることはたくさんあると考え、福島県でもボランティア活動に加わりました。そして、自分たちにできることを探そうと福島県に何度も訪れ、地元の人たちと協力して復興市や農業再生案を提案してきました。

## 学内にいながら 留学経験以上の英語力を習得

「留学」しなければ本当の英語力は身に付かないと考えている人は多いかもしれませんが、キャンパスで国際経験を積めるプログラムや環境が創大にあります。

### SUA 受験失敗から 本気で英語に取り込む

経済学部のIP(インターナショナルプログラム)とJAS(Japan-Asia Studies)プログラムに参加して、飛躍的に実力を伸ばした大塚さん。

「僕の第一志望はアメリカ創価大学(SUA)でした。英語が得意だし、勝手に“僕はSUAに呼ばれている”と思っていました(笑)」

しかしSUAへの入学は果たせず、創価大学へ進み、悶々とした日々を送っていました。そんな中で知ったのが、英語で経済学を学ぶIPの授業。IPは、レベル1で英語力とアカデミックな学習スキルを、レベル2では英語で経済学を多角的に学習します。

「英語で授業を受けるなら留学と同じだと思いきや挑戦しました。勉強漬けの日々でしたが、IPの受講で英語力は驚くほど向上し、TOEICスコアは250点以上アップしました」

大塚さんは、通常2年かけるIPを1年半で修了。そして、IP受講者の中で条件を満たした学生だけが受講できるJASプログラムに絶対的な自信をもって進みました。JASでは、留学生と共に英語でグローバルな経済学を学ぶのですが、ここで大きな挫折を経験します。

### 自信を失ったときに感じた 仲間との絆、先生方の支え

「皆のスピードやボキャブラリーに全くついていけなかった。自分の英語力はこんなものだったのかと打ちのめされました」

そして、日本人同士で話す英語からネイティブ英語に変えなくてはいけないと分析。そこから、過信を捨て、授業中は集中力をマックスに

し、先生や仲間に必死についていったといえます。頼りになったのは、IPで共に学んだ仲間の「一緒に頑張ろう」という言葉。まさに、英語や経済学だけでなく、タイム・マネジメント能力なども学ぶ、常に上を目指す仲間が多いIPならではの。熱心に指導してくれる先生の期待に応えたい思いも強かったそうです。

「JASの履修単位を取得したとき、先生は心から喜んでくれました。挫折からのスタートでしたが、英語力だけでなく、時間を有効に使うスキルや仲間と切磋琢磨しながら課題に向き合い、クリアする充実感を知りました」

### 創大には英語力をアップさせる チャンスがたくさんある

「ただ英語で話せるというだけではだめ。それを使いこなして自分自身をどれだけ表現できるか、高い専門性をもてるかが大切です。その点、創大には世界中からやってくる留学生が数多くいるので、自分が望めば、さらに上のレベルに行けるチャンスがいっぱいあります。就職活動でも創大の手厚いサポートに助けられました。エントリーシートの書き方から面接対策まできめ細やか。特に卒業生の模擬面接は、指導があまりに厳しくて、本番の面接がやさしく感じられたほどでした(笑)」

卒業後は組織の経営情報を統合し効率化を図るシステムを構築するIT企業へ。創大で培った“力”が未来への自信になっています。

## 国際舞台で活躍するための 力が付いたと実感

実力のある国際人の養成を目指すダブルディグリー(DD)コースでは、履修した学生がめざましい成長を遂げ、自信を持って世界へ挑んでいます。

### 高校生まで自信を持てなかった 私が変わった理由

現在、ミネベア株式会社の台湾事業所で、スマートフォンやカーナビの液晶向けの部品販売に携わり、日々、やりがいをもって過ごしている堀江さん。中国語が話せることはお客様とのコミュニケーションにおいて大きなメリットになっているといえます。しかし、

「高校時代の私は、成績は芳しくなく勉強が苦手でした。勉強だけでなく、いろいろなことに自ら限界を決めてしまっていたように思います」

自分に自信を持てなかった彼女が、いつどのように変わったのでしょうか。

「そのきっかけは文学部に入り、中国語ダブルディグリーコースを履修したことです」

ダブルディグリーコースとは、在籍している大学と留学先の大学との両方を卒業し、2つの学位を得られる制度。文学部には、中国語教育の最高峰である「北京語言大学」との間にプログラム協定があるので。

### 次のステップにつながる こまやかで丁寧な指導

中国語ダブルディグリーコースの1年次は、中国語を勉強しながら9月の選抜試験を経て、2月より2年間の留学へ出発します。

「1年次から北京語言大学の教科書を使う授業があり、少人数で丁寧な授業を受けました。また、先生、先輩には空きコマや放課後にも教えていただきました。そのお陰で、留学当初から現地の授業についていけたと思います」

北京で過ごした2年次、3年次の2年間で語学、文化、経済、歴史、国情など幅広い領域を

深め、さらに様々なイベントや大会に参加して多国籍の友人と交流するなど、かけがえのない時間を過ごしたそうです。

「4年次に日中2カ国語で卒業論文を作成したのですが、この経験で未知のレベルに挑む喜びを知りました。また、日中それぞれの教授からいただいた全く異なる視点の助言は、私のものの見方、考え方に大きな影響を与えました」

語学力が飛躍的に伸び、様々な経験が大きな自信となっていった堀江さん。いつしか創大で中国語を学んだ先輩が社会で活躍する姿が、次の目標になったそうです。

### DDで身に付けた語学力で 何事にも前向きに取り組む

「留学中に旧HSK(漢語水平試験)10級を取得しました。努力によって結果が出たことを実感でき、就職活動でも自信を持って中国語能力をアピールできました。勤務先は海外販売比率の高いメーカーなので、語学力と海外経験を評価していただけたのだと思います」

就職活動を前に、創価大学北京事務所主催のOB・OG懇談会で、現地で働く創大の先輩と話す機会に恵まれたことも視野を広げるきっかけとなりました。先輩の姿と、ビジネスという未知の世界に挑戦する期待感が一番のモチベーションになったといえます。

「就職して4年目になりました。慣れたとはいえ、仕事では初めて起こることや知らないことがまだまだたくさんあり、それに対応できなくてはなりません。でも、前向きに“とにかくやってみる”ことができるのは、留学をはじめとした大学での経験が生きていると感じます」



Profile

### 文学部2012年卒業 堀江 純子さん

中国語ダブルディグリーコース2期。卒業後、ミネベア株式会社(配属先:Minebea Technologies Taiwan Co.,Ltd)に就職。現在、台湾在住。仕事、プライベート共に充実した日々を過ごしている。在学中、ワールド会24期、CSS8期として活動した。

### 台湾で働いてわかった! 驚きと発見

堀江さんが仕事で一番驚いたのは、台湾人の営業マンとお客様の距離感や親密さ。肩を叩いて笑う、理不尽な要求に声をあげて怒るのもその例。一方で、お客様の課題を何とか解決したいと親身になって考える姿勢は、日本の営業マンよりも強いと感じるそうです。また、営業職や技術者にも女性が多いことも驚いた点だとか。結婚、出産後もフルタイムで働くのが当たり前前の台湾女性からは、同じ女性として学ぶことが多くあるようです。



## 陸上競技部 駅伝部

# 箱根駅伝2017 リベンジへダッシュ!



第93回箱根駅伝の出場権をかけた予選会が目前に迫ってきました。箱根駅伝に出場できるのは、予選会の上位10校。この狭き門をくぐり抜けるため、我が創大駅伝部の選手たちは、10月15日午前9時35分の号砲と共にスタートします。是非、応援よろしくお願いします。



## 箱根駅伝予選会へ応援に行こう!

### Q. 予選会ってなに?

A. 正式名称は「東京箱根間往復大学駅伝競走予選会」。箱根駅伝の出場権を獲得するための予選会です。本大会の出場チームは関東学生連合チームを含め全21チーム。前大会の上位10校は大会への出場が決定しているため、予選会で10の枠を争います。

### Q. 予選会通過はどう決まるの?

A. 予選会はタスキをつなぐ駅伝ではありません。各大学12名が20kmのコースを一斉に走り、上位10名の合計タイムが少ない10校が箱根への切符を手にできるのです。

### Q. どんな応援が嬉しい?

A. 沿道から自分の名前を呼んでもらうと、心強く思うという選手が多いそうです。人が少ないエリアだとなおさら。皆さんの声援が選手の「力」になります!

予選会に向けての選手たちの最新メッセージを聞くことができます。早速、二次元コードを読み込んでアクセス!



## 箱根駅伝予選会にかける意気込みを聞きました!



せがみ ゆうぜん  
**瀬上 雄然 監督**

### 積極的な走りを崩さず、最後の最後まで諦めない

リオ五輪の多くの競技で目にしたように、勝負は、最後の最後まで分かりません。勝っていても気を抜かない、リードされていても「逆転」はある。最後まで手を抜かないことを伝えています。決意を持って走る選手たちの姿を見てください。



せうじ  
**セルナルド 祐慈さん**

### 日本人トップでのゴールを目指す

先頭集団に食らいつきタイムを稼ぐ、その走りで皆を鼓舞しチームを引っ張るのが、主将としての役割だと思っています。個人では日本人トップ争いに加わりたく、全力で予選会に向けて調整していますので、応援よろしくお願いします。



おおやま のりあき  
**大山 憲明さん**

### リベンジを果たし、出場権をつかみ取る

苦汁を味わった昨年の予選会。その悔しさを今年にぶつけたいと思っています。自分の役目は、タイムを稼ぎチームに貢献すること。主将と共に先頭集団で粘りたいですね。皆で笑って箱根への切符を勝ち取れるように頑張ります。



**ケニア出身留学生  
経済学部経済学科1年  
ムソニ ムイルさん**

### I'll do my best to get a good record.

今年4月に来日した頃は、仲間とのコミュニケーションで難しいところもありましたが、今は良い関係が築けており、夏の合宿を通して、うまく調整ができています。それを予選会につなげ、自分のベストの走りができるように頑張ります。

## チームの今

8月4日から9月5日の約1ヶ月にわたった夏合宿。婦恋、菅平、妙高、黒姫高原などで高地トレーニングを積んできました。昨年の合宿よりも高い目標タイムを設定して、精神的に走り込んだといいます。6月の全日本大学駅伝対校選手権大会の予選ではマイル選手にアクシデントがあり、ほぼ手中にしていた切符を失いました。しかし、その結果をチーム全員の責任として捉え、再出発をきる選手たちの姿がありました。このことが、より強固な団結を生み出すきっかけとなったのです。リベンジを誓うチームの姿に、監督・コーチ陣も「箱根路も十分闘える」と確信しました。この夏で大きな成長を遂げた選手たち。粘りの走り、最高の結束力で、箱根駅伝への復活を目指します。

## 予選会情報

日時 ▶ 2016年10月15日(土)9:35スタート  
会場 ▶ 陸上自衛隊立川駐屯地→立川市街地→国営昭和記念公園

### アクセス(最寄駅)

JR中央線・立川駅 / 多摩都市モノレール・立川北駅 / JR青梅線・東中神駅、西立川駅 / 西武拝島線・武蔵砂川駅

### ●コースマップアドレス

[https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1v9qamYnffBqnZpQcfxda\\_Fns5sQ](https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=1v9qamYnffBqnZpQcfxda_Fns5sQ)







## 広がる海外オフィス

本学の海外拠点をご紹介します。創価大学の情報発信基地としてだけでなく、情報収集をはじめ、日本への留学を考えている現地の学生、また本学学生が海外留学した際の情報提供や相談など包括的にサポートします。是非、ご利用ください。

### 北京事務所開設10周年 記念講演会開催

#### 北京事務所

9月26日、創価大学北京事務所開設10周年記念講演会が中国の北京大学で開かれ、北京市内の交流大学の関係者、留学中の学生および卒業生等100名以上が参加しました。

北京大学李岩松副学長の祝辞に続いて、記念講演が行われました。出席した田代康則理事長は、「今後も両国の友好交流、そしてアジアと世界の平和安定を担う人材の育成を目指し、北京事務所をプラットフォームに学術教育交流の発展に努めたいと思います」と述べました。また当日は、「自然との対話写真展」のオープニングが同キャンパス内で催され、本学創立者によって撮影された写真80点が北京大学図書館ロビー展示室に展示されました。

創価大学北京事務所は2006年3月に開設されて以降、留学中の学生の支援や諸大学との交流行事を行い、両国の交流に尽力しています。



### 「スーパーグローバル大学創成支援」の一環で タイと韓国に海外オフィスが本年オープン!

#### タイ事務所

6月28日、タイ・バンコク市のタマサート大学内に設置した「創価大学タイ事務所」の開所式を行いました。

開所式では、タマサート大学のノーラニット評議会議長(元学長)や在タイ日本国大使館の佐渡島志郎大使はじめ、タイに事務所を置く日本諸大学の関係者ら約60名が参加。馬場善久学長は挨拶で、「より一層、相互交流に取り組み、タマサート大学をはじめ、タイの諸大学と連携しながら、本学の教育研究活動の国際展開を図ってまいります」と述べました。

同事務所では、本学への留学を考えているタイ人学生への情報提供や相談等に応じると共に、本学学生がタイに留学した際のサポートや、タイ国内の協定を結ぶ大学との連携強化に取り組む予定です。



#### 韓国事務所

9月26日、韓国・ソウル特別市に「創価大学韓国事務所」が設置され、開所式を行いました。

開所式では、本学の交流校、同窓生の代表等が参加し、馬場善久学長による記念講演をはじめ、弘益大学キム・ヨンファン学長と慶熙大学のパク・ヨンスン国際交流処長の挨拶がありました。馬場学長は席上、「韓国の交流大学との教育学的交流を通して、『人間教育の世界的拠点』の構築にむけて一層の努力を続けてまいります」と語りました。その後、記念のテープカットや事務所の見学を行いました。

同事務所では、本学への留学を考えている韓国の学生への情報提供や相談等を行うと共に、本学学生が韓国に留学した際のサポートや韓国内の交流大学とも関係性の強化を図っていく予定です。



# 世界市民への第一歩

## ～夏季海外研修レポート2016～

夏季海外研修で世界を体感してきた創大生たち。感動をレポートします。

アメリカの文化を、ダイナミックに学び感じた2週間!

USA ジョージア州立大学  
Georgia State University  
文学部3年 石田純平さん Junpei Ishida



ジョージア州立大学の学生とペアを組み異文化を感じ学んだ日々。アトランタは第二の故郷になりました!

一本の木を植える苦勞から、「草の根運動」がいかに地道かを学びました。

India インド・ボランティア  
法学部4年 大内伸子さん Nobuko Ouchi



文化や習慣、環境等を自ら体験することは、相手を尊重し理解することにつながることを学びました。

孤児院でのボランティアを経験。教育の可能性について考えるきっかけに。

Kenya ケニア・ボランティア  
経済学部3年 西井一矢さん Kazuya Nishii



ぬかるんだ道などを実際に歩きアフリカの現実を体で感じました。

全て韓国語で行われる授業。力が身に付いたことを実感。

Korea 慶熙大学  
Kyung Hee University  
国際教養学部3年 三浦拓未さん Takumi Miura



様々な国から集まった総勢100名を超える仲間と学んだ経験は、一生の財産です。





ネットワークの技術を「環境汚染対策」「農業支援」「独居老人の見守り」などに役立てるシステムを研究中

「システム全体を見渡しながらか問題点を見つけ、解決法を考えられるように学生を指導」

“Teaching students to find and solve issues by looking at systems as a whole.”

**安全なネットワークがあるから、LINEやFacebookもできる**

もはや私たちの生活になくてはならないインターネット。情報検索、文字や画像の送受信などが瞬時にできるのは、コンピュータやスマートフォン、サーバーなどをつないでいるネットワークがあるからですが、ネットワークをつなぐ技術を研究しているのが篠宮紀彦教授の研究室です。

「目には見えませんが、パソコンやスマートフォンの画面の向こう側では、膨大な情報のやりとりが行われています。しかし、常に外部からの攻撃、電磁波の影響などを受け、ときに切れたりすることもあります。こうした問題を解決しながら、情報が正確に伝わる安全・安心なネットワークを設計することを大きな研究テーマにしています」

**農業から福祉、発展途上国支援までで見据えた研究にもチャレンジ**

応用研究も数多く手がけています。そのひとつが、自然環境モニタリングシステム。ネットワークの技術を使って、遠隔地の水質や土壌の汚染物質などを常時監視し、異変が起きたら瞬時に知らせるシステムです。これを農業支援に活用する研究も進行中。

「大学周辺の農家さんに協力していただき、畑にセンサー付きの光ファイバーを設置して、それをネットワークでつないで研究室のコンピュータへ送るシステムを作っています。水やりや肥料といった管理は、個人の長年の勤で行われている部分が多いのですが、データを蓄積して分析すれば、勤を数値化できます。勤に頼らずに、作物の品質管理をしたり、出来高を増やすことができるようになれば、新しく農業を始める若い人に対する大きな支援になるはず。さらには、日本の農業のノウハウをシステムごと発展途上国に輸出することも可能になると考えています」

また、プライバシー保護のためにカメラは使わない

というコンセプトで「独居老人の見守りサービス」のシステムも開発中。研究の応用範囲は限りなく広がりそうです。

**成功体験を重ねながら自信とスキルを身に付けていく学生**

研究室の学部生・大学院生は約30名。学部4年生のほとんどが大学院に進み、修士課程修了後に就職します。

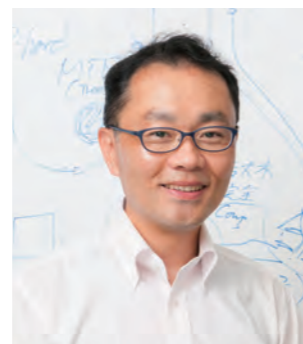
「学生は4チームに分かれて研究しています。学生が「この課題、難しそうだ→自分でできるかな?→あ、少しできた!→次はもっとうまくやろう!」というように自信とスキルを身に付けながら成長していけるような指導を心がけています。また、広い視野でものを見て、どこにどのような問題があるのか、それを解決するために自分は何をすべきか。こうしたことを常に考えることを学生に求めています。なぜなら、日本の産業は大きな転換期で、単に物を作って売ってではなく、作った物を組み合わせて大きなシステムを作って売っていかないと生き残れない時代になっているからです。研究室での経験は就職活動や仕事をしていくうえできっと役立つはず。卒業生も頻りに研究室に来て、学生の研究や進路の相談にのるなど、サポートをしてくれています」



水に反応するセンサー付きの光ファイバーの実験装置。センサーは共生創造理工学科の渡辺一弘教授の研究室が作ったもの。研究室同士の連携が研究に生かされています



米国テキサスでの国際会議で発表する篠宮研究室の大学院生



**Profile**

**篠宮 紀彦**

Norihiko Shinomiya  
東京都生まれ。1995年創価大学工学部卒業。2000年(株)富士通研究所 ネットワークシステム研究所入社。2001年創価大学大学院工学研究科情報システム学専攻博士後期課程修了。2005年創価大学工学部専任講師。2009年創価大学工学部准教授。2014年米国テキサス大学ダラス校客員研究員。2015年より創価大学理工学部教授。研究分野は情報通信ネットワーク設計理論、グラフ・ネットワーク理論。

**学生の活躍 Student Activity**

**経済学部**

**米国国務省主催「地球環境問題に関する学生リーダー養成研修」に参加  
Students take part in the “Study of the U.S. Institute for Student Leaders on Global Environmental Issues” held by the US Department of State**



左手前が市川さん。環境倫理についての講義にて

米国国務省がスポンサーとなり、モンタナ大学が主催する「地球環境問題に関する学生リーダー養成研修」に経済学部4年の市川美佐子さんが日本代表4名のうちの1人として参加しました。本研修は学部生を対象とし、各コミュニティで変化を起こすプロジェクトのリーダーを輩出することが目的です。6月29日から8月4日にわたり、モンタナ、テキサス、ワシントンD.C.で開催され、日本の他ブラジル、中

国、ロシア、インドから各国4名が参加。市川さんは、「多種多様な価値観を持つ人たちと共に、世界が抱える問題解決に取り組む経験をしたいと考え、研修に参加しました。その中で、互いの個性を認め合い、いかに発展的にグループで協力して解決策を導き出すことができるかが、最も重要であったと思います。今回の学びをこれからの学生生活に生かし、自身の成長につなげていきます」と語りました。

**法学部**

**「Girls20サミット2016 国際女性会議」に日本代表として参加  
Soka student represents Japan at the World Assembly for Women Girls 20 Summit**



右が池田さん。声明の作成に向けてディスカッション中

中国の北京で8月2日から11日まで開催された「Girls20サミット2016 国際女性会議」に、法学部4年の池田桜さんが日本代表として参加しました。本サミットは、次世代の女性リーダーの育成を目的にビル・クリントン元アメリカ大統領が設立した「クリントン・グローバル・イニシアチブ」が2009年に立ち上げた国際女性会議です。書類・面接の厳正な審査を経て、G20加盟国を中心に、各国の代表1名(18歳

から23歳の女性)が選出されます。池田さんは「23カ国から集った参加者と時間を共有する中で、数十年先の世界を意識して行動している姿に刺激を受けました。ギリシャの学生は、すでにNGO団体を立ち上げ、女性へのリーダーシップ教育を運営していました。理想を大きく持ちながらも、足元を見て行動することの大事さを肌で感じました」と述べました。

**文学部**

**第6回アフリカ開発会議のイベントで、本学学生が「Grand Award」を受賞  
Soka student proposal receives Grand Award from the Sixth Tokyo International Conference on African Development**



理数系教育のビジネスモデルを提案する佐藤さん

日本政府がケニア共和国にて、8月26日から28日にわたって開催した第6回アフリカ開発会議(TICAD VI)の公式サイドイベント「日本・アフリカ学生イノベーターズ・エキスポ」に、文学部4年の佐藤幸恵さんが参加。最優秀の発表者に贈られる「Grand Award」に輝きました。本エキスポは、「質の高い教育」や「食糧安全保障」など、2015年に国連が採択した「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標の達成に向

け、アフリカの発展に貢献できるビジネスアイデアを日本・ケニアの学生が英語で提言するものです。佐藤さんは日本の伝統である「折り紙」や「そろばん」の活用法を映像におさめ、アフリカの地方の子供に送り、教育の機会が行き届かない地域に広げるための試みを提言しました。受賞した佐藤さんは、「現地の方と直接触れる中で、若者の力を必要としてくれていることを肌で感じました」と語りました。



法学部

## 世界最大規模の国際学生会議である「HPAIR」に参加 Soka takes part in HPAIR, one of the world's largest international conferences



国際法を学ぶ内田さん。タイのタマサート大学にも留学

香港中文大学で8月19日から23日まで開催された「HPAIR(Harvard Project for Asia and International Relations Asia Conference)」に、法学部4年の内田みゆきさんが参加しました。本会議は、1991年からハーバード大学が主催する国際会議で、世界中の学生にアジア太平洋における政治・経済・社会問題等について議論する場を提供しています。25回目となる本年は世界各国から約550名の学部

生・大学院生が集い、「アジアのエンパワメント」をテーマに掲げ、著名人による基調講演をはじめ、5つの分科会でディスカッションが行われました。人道支援の分科会に参加した内田さんは、「世界各国からの若者と共に学ぶことで、何事も自分の手で解決したいとの強い意志を持つことが大事であると感じました。これから興味を持ったことは徹底的に調べ、行動していこうと思います」と語りました。

理工学部

## 世界トップクラスの理系学生が集う「STeLA Leadership Forum」に参加 Soka takes part in the STeLA Leadership Forum, an organization of some of the top science students in the world



右が田中さん。世界中から集った学生たちと議論

沖縄科学技術大学院で8月20日から30日まで開催された「STeLA Leadership Forum」に、理工学部2年の田中健児さんが参加。本フォーラムは、世界有数の研究者が集い、最先端の科学技術の研鑽を行うと共に、リーダーシップの向上、異文化対話の促進を目的としています。世界各国より約40名の学生が集い、田中さん

は、中国、フランス、オランダ、UAEの学生ら5名でチームを組み、10日間様々な課題やグループワークに取り組みました。田中さんは、「様々な国から集ったメンバーと一緒に学び、互いの考え方や価値観を認め合い、結論を導いていく経験ができました。さらに学びを深めていきます」と語りました。

経済学部

## 世界平和学生会議「Peace Conference of Youth 2016」に参加 Soka takes part in the Peace Conference of Youth 2016 for students from around the world



フィリピンのアテネオ大学への留学経験もある大久保さん

大阪で8月30日から9月2日まで開催された世界平和学生会議「Peace Conference of Youth 2016」に、経済学部4年の大久保萌さんが参加しました。本会議は、大阪青年会議所が主催しており、世界平和実現のために主体的にアクションを起こすことができるリーダーの育成を目的としています。事前課題を終えた後、世界各国から次

代を担う学生が集まり議論を重ね、問題解決プランを発信するもので、今年度のテーマは、「Wave of Happiness ~命の水をつなげよう~」。「持続可能な開発目標」SDGsの一つである水問題を解決する提言を作成しました。大久保さんは、「海外の学生と問題点を議論し、貴重な経験ができました」と述べました。

創価女子短大  
現代ビジネス学科

## 東京大学で開催された「M2M/IoT利活用人材育成シンポジウム」で発表 Kameda seminar class presents at a symposium at the University of Tokyo



コミュニケーションロボット活用研究を発表する亀田ゼミ

東京大学駒場キャンパスにて、7月9日に開催された「M2M/IoT利活用人材育成シンポジウム」に創価女子短大・現代ビジネス学科の亀田ゼミナールが参加しました。学部生・大学院生ら、全24グループが発表する中、本学の学生は「保育園児を対象とした会話型ロボットへの能動的な操作を組み入れたレクリエーションの実

施」とのテーマで、コミュニケーションロボットを多摩地域の保育園に導入した取り組みを発表しました。主催者からは「M2M/IoT研究で重要なユーザーの視点で取り組んでいる貴重な実践的な研究です。年々積み重ねられてきた取り組みで、得られた知見も深化がみられ、素晴らしいと思います」との評価をいただきました。

## 通信教育部開設40周年記念の「学光祭」を開催

Gakko-sai held to celebrate 40th anniversary of the Division of Correspondence Education

通信教育部開設40周年を記念する新世紀第16回(第41回)学光祭が、8月16日に池田記念講堂で開催され、日本各地、海外17カ国・地域から夏期スクーリング参加中の学生や卒業生ら、約3,000名が集いました。通信教育部は、年齢・職業・居住地を問わず、多くの方に高等教育の機会を提供することを目的に開学から5年目の1976年に開設しました。大学卒業を目指して学ぶ正課課程3学部(経済・法・教育)と共に、教員免許の取得や1科目から受講できる科目等履修など、学びのニーズに合わせて様々な教育機会を提供しています。これまでの卒業生は18,000名を超えており、経済や教育、法曹など

様々な分野で活躍しています。

40周年を記念する式典では、本年4月より熊本県で小学校教員として働くラザフィマナンテナ仁美さん(2015年教育学部卒)と、早稲田大学理工学術院教授の光國光七郎さん(1985年経済学部卒)から通信教育部での学びを経て、それぞれの場所で奮闘する様子の報告がありました。花見常幸通信教育部長の挨拶に続いて、馬場善久学長が「開設50周年を目指して、これからも時代の変化に対応しながら、質の高い教育を提供していきたいと思います」と述べました。



「学光祭」開設40周年記念の集いに参加した多くの通教生たち



日本各地から集まった通教生の学びの熱は猛暑以上!

## 第43回夏季大学講座が開講

Summer lectures offered at Soka for 43rd year

大学の教育・研究成果を市民の皆様にも還元し、広く学習の機会を提供するため、本年も「夏季大学講座」を8月26日、27日、28日の3日間、本学キャンパスで開催しました。この夏季大学講座は1973年に開講されて以来、毎年8月に実施しており今回で43回目を迎えました。本年は、3日間50講座に10,000名を超える方より申し込みがあり、全国各地から参加がありました。英語・中国語・韓国語・ドイツ語の言語科目の入門講座や、生活習慣の改善やストレスと依存症等を

テーマにした健康講座、子育て、介護、教育、科学、文化、歴史など幅広い分野にわたって開講しました。「学ぶ心を育む一児童理解を中心にして」の講座に参加した方からは、「すぐに役立つ実践的なお話が聞けて良かったです。子供たちのおかれている環境をしっかりと見極めていくこと、可能性を信じてかかわることの大切さを学びました」などの声が寄せられました。



講座「やさしい英会話講座」



講座「みんなで楽しむ身近な数学の美しい世界」



## オープンキャンパスで「サマーチャレンジセミナー」を開催

Summer challenge seminars held at Open Campus

7月30日、31日、8月21日のオープンキャンパスで大学進学を目指す中高生やその保護者を対象に「サマーチャレンジセミナー」を開催しました。映画「ビリギャル」原作者で坪田塾塾長の坪田信貴氏、原田教育研究所代表の原田隆史氏、人気マンガ「ドラゴン桜」の英語教師のモデルで竹岡塾主宰の竹岡広信氏が講演し、3日間で約2,500名が参加しました。坪田氏は「誰でも成績を急上昇させるテクニック」をテーマに、本来備わっている能力を引き出す方法、家族や教員が子供にポジティブな言葉で伝えることの大事さについて言及しました。原田氏は「夢をかかなえる心と頭の鍛え方」、竹岡氏は「『ドラゴン桜』流 人の伸ばし方」と題して講演しました。



## 新しいクラブハウス別棟が完成

New clubhouse building completed

クラブハウス別棟が完成し、記念のオープニングセレモニーを7月29日に開催しました。クラブハウス別棟は総合体育館に隣接し、部室、会議室などを備えています。セレモニーでは学生を代表して、学生会運営委員長の谷口優和さんが「このような環境でクラブ活動に打ち込めることに感謝し、クラブ活動を通して人間力の向上に努めてまいります」と述べました。代表によるテープカットの後、クラブハウス別棟の見学会が行われ、学生たちが新しい部室を前に歓声をあげる様子が見られました。参加した学生は「部室も広くなり、設備も整っていて、感動しています。素晴らしい環境を整えていただいたので、練習に一段と力を注いでいきたいと思います」と喜びを語りました。



## 2016年度「創価教育同窓の集い」を開催

Holding of 2016 Soka Alumni Gathering

9月18日、「創価教育同窓の集い」が、池田記念講堂で盛大に開催されました。日本全国・世界各地から、約5,000名の創価教育同窓の友が母校に集い、代表2名の卒業生が活動報告を行いました。尾崎富美子さん（創友会31期）から、医学博士として、iPS細胞の研究に従事する様子の報告がありました。また、弁護士として働く本村亮さん（鳳友会31期）は、「今後も創価教育で学んだ、目の前の一人のため、悩める人のために力ある法律家に成長していきます」と抱負を述べました。続いて、秋谷芳英創友会委員長がデジタル版の卒業生銘板が設置されたことなどを紹介しながら、「これからも母校の発展を支えていきたいです」と述べました。



## 「勇気の証言 — ホロコースト展 アンネ・フランクと杉原千畝の選択」展が全国4会場を巡回

The Courage to Remember: The Holocaust 1939-1945, The Bravery of Anne Frank and Chiune Sugihara exhibition held in four locations around Japan

「ホロコースト」の歴史と、その時代に向き合ったアンネ・フランクおよび杉原千畝の生き方を紹介する一般市民向けの“人権”のための教育展示を開催しています。昨年（2015年）10月に池袋で東京展、本年1月に広島展、4～5月に創価大学展、9月に北海道苫小牧展を開催し、多くの皆様にご来場いただきました。今後、下記の日程において巡回展を行います。

開催地	開催期日(予定)	開催場所
福井県敦賀市	2016年10月6日～10日	敦賀きらめきみなと館
青森県青森市	2016年10月21日～30日	青森産業会館
沖縄県浦添市	2016年11月22日～27日	浦添市民体育館
静岡県沼津市	2016年12月2日～11日	ブラザヴェルデ

※詳細は創価大学ホームページをご覧ください。



## 親子で楽しむ「理科教室」と「絵画教室」を開催

Science and painting classes held for parents and children

小学生とその保護者を対象とした親子で楽しむ「理科教室」と「絵画教室」が8月6日に本学で開催され、約100組の親子が参加しました。本講座では本学教員が講師を務め、参加者は4種類から希望するコースを選ぶことができます。

走行ロボットを組み立ててプログラミングをしながらゴールを目指すコースや、遊びながらプログラミングが学べる「Scratch」という学習ソフトを用いたコンピュータゲーム開発体験のコース、虹発生装置を作り光と色について学ぶコース、そして東京富士美術館で美術鑑賞の後に自由に創作するお面作りの4コースが開かれました。子供と保護者が一緒に夢中になって取り組む様子が見られ、完成したロボットが稼動したり、虹発生装置が虹を作り出すと、そこかしこから歓声があがりました。



## 八王子市の高等教育機関初となる事業所内保育所「つばさ保育所」をキャンパス内に開所

Opening of Tsubasa Nursery School, the first nursery school at an institute of higher learning in Hachioji

9月1日、キャンパス内に「学校法人創価大学つばさ保育所」を開所しました。この保育所は、男女共同参画社会実現に向けた取り組みの一環として、子育てを行う教職員の職業と家庭の両立を支援するものです。実務は保育をてがけるNPO法人SRF Wings（サーフ・ウイングス）が行います。本学教職員および八王子市民が対象で、0から2歳児を受け入れ、定員は10名（教職員枠7名、市民枠3名）。乳児室や保育室、調理室、応接コーナーの他、屋外遊戯場としてウッドデッキや砂場、遊具などがあります。開所式には、八王子市の石森孝志市長をはじめ、入所するご家族、本学関係者らが参加。田代康則理事長は、「自然豊かな環境の中で、子供たちには大きく成長してほしいと思います」と語りました。





# ▶ 創価大学動画コンテスト 結果発表!!

## Congratulations!

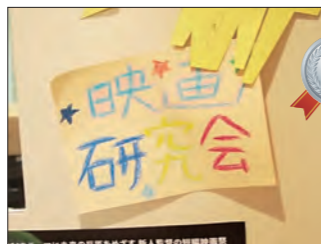
創大・短大の魅力をテーマに募集しました動画コンテストに、たくさんのご応募をいただき、ありがとうございました。厳正なる審査を行い、各賞が決定しましたのでご報告します。各賞の二次元コードを読み込んで、創大・短大の魅力をチェック!

### グランプリを受賞したRoyさんの喜びのコメント!

「創価大学に留学中、日本をはじめ様々な国から集う留学生と共に学び生活する中で、人として大きく成長することができました。その感謝の気持ちを動画で表現した作品が大賞に選ばれて嬉しく思います!」



**1 グランプリ**  
動画タイトル:「Blossoms of Soka University 2016」  
投稿者: Roy Debjit Kumar (ロイ デブジットクマー)  
※交換留学生(インド、セイントステファンカレッジ)  
URL: <https://www.youtube.com/watch?v=h4PCKvT8GQk>



**2 準グランプリ**  
動画タイトル:「Backstage shots」  
投稿者: 創価大学映画研究会  
URL: <https://www.youtube.com/watch?v=gm5vz6mBB00>

## 創大オフィシャル放送局 ユニスタ

2016年4月、映像の制作・発信の充実をはかるため、リニューアル・開設した「ユニスタ(Soka University Studio)」も開設から半年が経ちました。人気の映像は、再生回数16万回を超えるなど、多彩で内容の充実したコンテンツに注目が集まっています。



ここがすごい!  
**ユニスタ①**  
9番組を  
配信中



大学PR動画、ニュース、教育、留学生など全9番組に動画をカテゴリー分けしており、興味や関心に合わせて好みの動画を閲覧することができます。

**NEWS!**  
10月下旬には箱根駅伝予選会などが含まれた、「SUN Movie vol.14」が公開予定です!

**ユニスタURL**  
<http://video.soka.ac.jp>

ここがすごい!  
**ユニスタ②**  
過去の視聴から  
オススメ動画を表示



過去の視聴からオススメ動画が表示される機能があります。興味のある動画が自動で表示されるため、動画を探さずに見たい動画が見つかります。

ここがすごい!  
**ユニスタ③**  
人気動画、  
最新動画などが一覧



視聴者のアクセス数が多い人気動画の一覧が表示されます。話題の動画が一目瞭然。最新動画も一覧になっており、いち早くキャッチできます。

## 大学の最新ニュースを 逃さずチェック!

創価大学ソーシャルメディア公式アカウントをご紹介します。是非、ご利用中のSNSでフォローしてください。

- LINE ライン** 創価大学の教育内容やニュースなど、主にタイムラインでホットな情報を配信します。
- Instagram インスタグラム** 創価大学のキャンパス風景や各種イベントの様態を画像で紹介いたします。
- Facebook フェイスブック** 創価大学の教育内容やニュース、メディア掲載情報を紹介します。英語版もあります。
- Twitter ツイッター** 創価大学のニュースやイベント、担当者による所見などをつぶやきます。英語版もあります。

SNSでは、ドラマや映画のロケで使用された情報なども発信しています。

## LINE 創価大学キャラクターの「ゆるかわLINEスタンプ」が新登場!

創価大学キャラクターのDEEくん、ETANYちゃん、GLOBOくんが、「ゆるかわLINEスタンプ」になりました。40種類120円(50LINEコイン)でLINEスタンプショップで発売しています。ゆるかわなキャラクターが皆さんの会話を盛り上げます。



## 創友会メルマガ

創友会では、創友会員の方を対象に、創価大学の最新ニュースなどを紹介する創友会メールマガジンを定期的にお届けしております。登録をご希望の方は、下記の内容を創友会事務局(alumni@soka.ac.jp)までメールにてご連絡ください。

①氏名②「創友会番号」、「学籍番号」、または「生年月日」のいずれかの情報  
③登録アドレス  
問合せ先: 創友会事務局  
E-mail: [alumni@soka.ac.jp](mailto:alumni@soka.ac.jp)  
Fax: 042-691-1768

## 健康を科学する 第10回 ヒトはなぜ眠るのか?

人生の3分の1を費やす睡眠、積算すれば25年に。何故ヒトはそんなに睡眠に時間を費やすのか? 最新の研究を紹介します。

保健センター  
根本正史  
管理医師  
専門は脳神経科学



- 1. 作業能率の回復**  
10時間以上起きていると、毎時間当たりアルコール血中濃度が0.004%増えるのと同程度の作業能率低下があります(Dawson)。例えば、朝8時に起床し深夜1時頃になると、酒気帯び運転と同程度(0.03%で免許)の作業能率まで低下します。また、睡眠時間が6時間をきると、本人には気づかぬうちに、マイクロスリープと呼ばれる秒単位の居眠りが頻発、作業能率が低下するばかりか大事故につながる恐れがあります。
- 2. 学習と記憶の固定・整理・統合**  
学習は様々なタイプの記憶を基礎に成り立ちます。その学習効果を判定すると、睡眠をはさんだほうが良好な結果が得られ、それは、眠っている間も日中とは異なる仕方で脳が働くからです。毎日の体験には、生存に役立つ重要な情報があれば、ゴミのような不要な情報もあります。記憶の整理とは、ゴミを捨て、必要な情報にすぐアクセスできるようにすることです。動物実験では、睡眠中に日中あった重要な記憶を繰り返し再生・追体験するという証拠があります。この場合、その記憶は強固なものになりますが、反対に、日中に体験した大量の記憶を睡眠中に消去するという証拠もあります。両者が組み合わさり記憶が整理されるのです。この記

憶処理において、個々の記憶間で重複する記憶要素のみが強化されると概念的認知が生まれ、制約から解放され自由に連想された記憶との統合で創造的な着想が生まれます(Lewis)。

- 3. 心の安定**  
睡眠障害は不安や抑うつとの重症度と密接な関係があります。睡眠が不足すると、感情を司る扁桃体が過活動となり、休息感にかかわる徐波睡眠が減少、負のスパイラルに陥ります。また、睡眠は、感情を伴うエピソード記憶の固定と、その記憶更新時の書き換え(再固定化)にかかわり、認知的歪みにも影響すると考えられます。
- 4. 免疫機能、脳と身体の維持**  
風邪のウィルスを点鼻するチャレンジで、睡眠6時間以下のグループは、7時間を越えたグループに比べてオッズ比4倍以上で風邪に罹りやすく(Prather)、4時間の睡眠を続けると免疫抗体産生が半分以下になるとの報告もあります。さらに、睡眠不足は老化を促し、認知症と生活習慣病を招きます。睡眠を削って良いことはありません。計画的に、良質な睡眠がとれるよう工夫しましょう。それこそ、睡眠中には、凄いことが起きているから(Lewis)!



# 2018年度入試からAO入試 PASCAL(パスカル)導入

2018年度(平成30年度)入試からAO方式による「PASCAL パスカール入試」を導入します。この入試では創価大学への入学を強く希望する受験生を求めます。選考方法は第一次選考として書類審査を行い、第二次選考は、アクティブラーニング方式

のグループワーク、小論文、面接を行います。この入試では、受験生の表現力、主体性、協働性などを多面的に評価します。

詳細は **創価大学 パスカール** で検索!

## 2017年度 入学試験日程一覧

創価大学			
	出願期間	試験日	合格発表日
公募推薦入試	2016年11月1日(火)～11月8日(火) (郵送 締切日消印有効)	2016年11月19日(土)	2016年11月30日(水)
大学入試センター試験利用入試(前期3科目方式)	2016年12月20日(火)～2017年1月13日(金) (郵送 締切日消印有効)	2017年1月14日(土)・15日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること (本学独自の試験は課さない)	2017年2月13日(月)
大学入試センター試験利用入試(前期4科目方式)			
全学統一入試(3科目方式)	2016年12月20日(火)～2017年1月19日(木) (郵送 締切日消印有効)	2017年2月3日(金)	2017年2月13日(月)
全学統一入試(2科目方式)			
一般入試	2016年12月20日(火)～2017年1月19日(木) (郵送 締切日消印有効)	経済・法・教育学部 2017年2月7日(火)	2017年2月18日(土)
		経営・文・国際教養学部 2017年2月8日(水)	
		看護・理工学部 2017年2月9日(木)	
大学入試センター試験利用入試(後期3科目方式)	2017年2月22日(水)～3月3日(金) (郵送 締切日消印有効)	2017年1月14日(土)・15日(日)に実施される大学入試センター試験を受験すること (本学独自の試験は課さない)	2017年3月13日(月)

## 創価女子短期大学

	出願期間	試験日	合格発表日
公募推薦入試	2016年10月26日(水)～11月4日(金) (郵送 締切日消印有効)	2016年11月12日(土)	2016年11月18日(金)
一般入試	2017年1月4日(水)～1月20日(金) (郵送 締切日消印有効)	2017年2月4日(土)	2017年2月13日(月)

## 進学フェア 開催!

10月中旬から12月上旬にかけて、全国32会場で創価大学・創価女子短大独自の「進学フェア」を開催します。最新情報やトピックを交えた、創価大学・女子短大の魅力を教職員よりお伝えします。対象は受験生・高校生・中学生・保護者の皆様、どなたでも参加できます。ご参加お待ちしております! ※予約不要です

### ●開催日程・会場

都道府県	日時	会場名
鳥取	10月16日(日) 10:00	国際ファミリープラザ 3階稲盛ホール
愛媛	10月16日(日) 10:00	愛媛県総合社会福祉会館 4階第1会議室
北海道	10月22日(土) 15:00	旭川市とわき市民ホール 4階多目的ホール1
富山	10月22日(土) 15:00	富山県教育文化会館 5階大会議室501号室
山口	10月22日(土) 15:00	下関市勤労福祉会館 2階第4会議室
北海道	10月23日(日) 10:00	TKP札幌カンファレンスセンター 7階カンファレンスルーム7A
長野	10月23日(日) 10:00	JA 長野県ビル 11階A会議室
広島	10月23日(日) 10:00	TKPガーデンシティPREMIUM広島駅前 5階カンファレンスルーム5A
大阪	10月29日(土) 15:00	TKP大阪淀屋橋カンファレンスセンター B1階ホールB
岩手	10月29日(土) 15:00	盛岡劇場・河南公民館 2階ミニホール
大阪	10月30日(日) 10:00	TKP大阪淀屋橋カンファレンスセンター B1階ホールA
宮城	10月30日(日) 10:00	TKP仙台ビジネスセンター(2100仙台ビル) 3階カンファレンスルーム3A
滋賀	10月30日(日) 10:00	ピアザ淡海(滋賀県立県民交流センター) 3階301会議室
千葉	11月5日(土) 15:00	TKPスター貸会議室千葉 B1階カンファレンスルームB1B
徳島	11月5日(土) 15:00	シビックセンター 4階活動室3
鹿児島	11月5日(土) 15:00	TKPガーデンシティ鹿児島中央 3階屋久島
東京	11月6日(日) 10:00	TKP渋谷カンファレンスセンター 4階ホール4A
香川	11月6日(日) 10:00	高松テルサ 3階303会議室
熊本	11月6日(日) 10:00	TKPガーデンシティ ネットホテル熊本 2階あそい
栃木	11月12日(土) 15:00	TKPガーデンシティ宇都宮 9階マース
三重	11月12日(土) 15:00	メッセウイング・みえ 2階会議室
山形	11月12日(土) 15:00	山形県JAビル 9階会議室C
群馬	11月13日(日) 10:00	白銀ビル 2階第1会議室
愛知	11月13日(日) 10:00	TKP名古屋駅前カンファレンスセンター 5階ホール5A
福島	11月13日(日) 10:00	貸会議室セルフミーティングルーム虎丸 2階会議室C
佐賀	11月26日(土) 15:00	サンシティ 2階Cホール
和歌山	11月26日(土) 15:00	和歌山市勤労者総合センター 4階大会議室
福岡	11月27日(日) 10:00	TKP博多駅前シティセンター 8階ホールC
奈良	11月27日(日) 10:00	奈良県社会福祉総合センター 5階大会議室
沖縄	11月27日(日) 10:00	キーブフロント 会議室A
神奈川	12月4日(日) 10:00	TKP横浜ビジネスセンター 6階ホール6A
埼玉	12月4日(日) 10:00	TKP大宮カンファレンスセンター 3階カンファレンスルーム3C

※大阪会場は10月29日(土)・10月30日(日)の2日間開催いたしますので、ご都合の良い日程をお選びください。

## 編集部からのお知らせ

編集部では、読者の皆様の声を募集しています。これからも、充実した魅力ある誌面づくりに努めてまいりますので、何卒よろしくお願いたします。

FAX: 042-691-9300 E-mail: sun@soka.ac.jp

